



作文2部

のう りん すい さん だい じん しょう  
農林水産大臣賞

# “ご飯”で病気に勝つ

徳島県阿波市立久勝小学校六年

大本 泉

「泉と一緒に、ご飯を食べると、とってもおいしいよ。元気が出る。ご飯は、どんなによく効くと言われていた薬よりも、よく効きそう  
だ。」

と、私の祖父が言いました。この言葉は、最近の祖父の口ぐせでもあります。

私の祖父は八十四歳。四年前に肺がんが発見されました。それ以来、病気と戦っています。初めて、肺がんが分かった時、病院での治療と合わせて、家庭で出来ることはないだろうか、母と私は一生懸命、考えました。そして、思いついたのが、“食事”です。それも、ご飯を中心として、体に良い物を食卓に並べることにしました。

それから一年。祖父の肺がんは消えてしまいました。私たち家族は大喜びでした。母は

「食事は、特にご飯は、日本人の体にとっても大切なもの。これからも、おじいちゃんにしっかりとご飯を食べてもらおうね。」

と言いました。私もそれから、母の手伝いを積極的にするようになりしました。

元気になった祖父を中心に囲む食卓は、とても楽しく、幸せな時間となりました。私はいつも心の中で、

「この幸せが、いつまでも続きますように。」

しかし、今年の四月、祖父の肺がんは再発。そして、骨にまで転移していることが分かりました。打ちひしがれそうな気持ちになりましたが、何事にも前向きな私たち家族は、負けませんでした。祖父は、厳しい状態の中で、放射線と抗がん剤治療となりました。聞いてはいましたが、抗がん剤を投与すると、祖父は吐き気におそわれました。食欲も落ち、これは困ったと思いました。

「おじいちゃん、何かたべたいかなあ。」

と聞くと、

「やわらかい、おかゆが欲しい。」

と言いました。私は、母に教えてもらって、おかゆ作りに初めてチャレンジしました。私の作ったおかゆを祖父に食べてもらうと、食欲がなかったのに、とてもおいしそうに食べてくれました。私はとてもうれしくて、

「おじいちゃん、また作ってあげる。」

と言うと、祖父は笑顔になりました。

それから毎日、おかゆ作りは私の当番となり、お米をとぐ時には、

「おじいちゃんの病気が治りますように。」

と心の中でつぶやきながら、するようになりました。

今では、祖父も少し元気になりました。私は、祖父の病気が治ると信じています。そして、家族そろってご飯を食べることは、何よりも大切なことだと思えます。この“ご飯”をいつまでも、おいしく祖父に食べてもらえるように、いろいろ工夫したおかゆ作りをしていきたいです。ご飯は家族の“絆”でもあります。祖父のいる食卓を、いついつまでも保ち続けたいと、私は心から願っています。